

北朝鮮有事の円相場シミュレーション

今月7日にアメリカはシリアを空爆。米中首脳会談の最中に実施された事から、市場では中国や北朝鮮に対するけん制であったとの見方が強い。その後は米空母が朝鮮半島付近に派遣されるなど、足元で北朝鮮情勢がクローズアップされている。米朝間が緊張の度合いを増せば、リスク回避の円高要因となる公算が大きい。

その場合のドル/円の下値目処として、まずは心理的節目の110円ちょうどが挙げられる。すぐ下に週足の一目均衡表の基準線(執筆時109.924円)がある他、先月後半以降何度も下押すも一度も割り込んでいないため、110円は攻防の分岐点として注目されよう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

下抜けは容易ではないと見るが、もし割り込んでしまうと、月足の一目均衡表の雲上限(今月108.992円)や転換線(執筆時109.097円)に近い109円ちょうどの心理的節目に向けた一段安も考えられる。

現時点では可能性は低そうだが、万一武力衝突が発生した場合は急速に円高が進む事もあり得る。状況はやや異なるが、過去に急落した例を振り返ると、東日本大震災時が発生から約1週間で8%、英EU離脱国民投票時は1日で7%であった。市場がパニック的な動きとなる場合、7~8%程度の下押し水準が一つの目処となるかもしれない。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2017 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com